

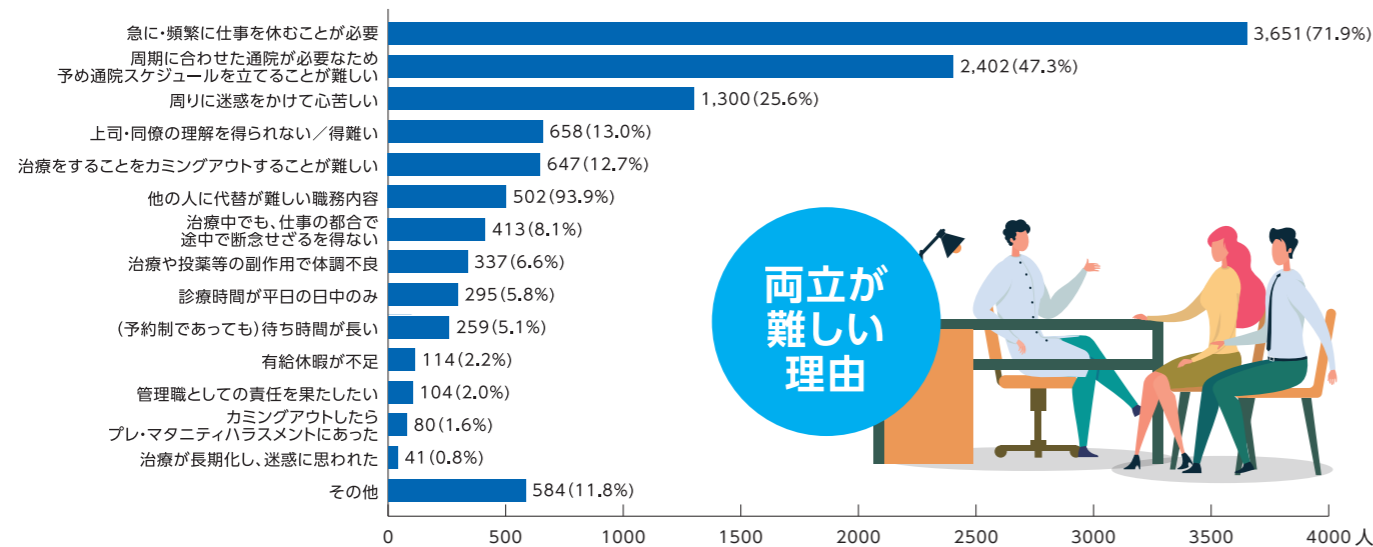
経営サプリメント

各方面の専門家によるビジネスに役立つエッセンス

不妊治療支援で5人に1人が退職

～不妊治療支援の有無が選ばれる企業の基準に～

おさらい — 不妊治療が原因で5人に1人が退職



不妊治療中(女性)の9割は、職場に治療のことを伝えていません。そのため、仕事との調整や職場の理解が足りず、続けたい仕事でも辞めなくてはならないのが現状です。

不妊治療は社内だけで解決するのが難しい

まず、重要なのが「社内」に不妊治療を支援する部署を作ったとしても、残念ながら利用されていないということです。その原因は主に5つです。

- ①あくまでも同じ会社内のことなので、プライベートの事は伝えにくい
- ②会社の方針が強くなり、社員の想いが反映されず使えない制度になっていく
- ③社内に不妊治療支援のノウハウがない。助成制度等の最新知識がない
- ④継続性に欠ける
- ⑤社員同士の人間関係に左右される

「第三者機関」での支援が求められている

不妊治療はプライベートな要素が多く社内だけで解決するのは極めて難しいのが現状です。その為、私たちは「第三者機関」としてのサポートを行っています。



NPO法人フォレシア
代表理事
佐藤 高輝
自身の不妊治療の経験から支援事業を開始。
2003年 秋田県立工業高等学校卒業
2012年 秋田市の設備会社を退社
2012年 エクステリア事業を個人事業主として創業(現在も継続)
2017年 NPO法人フォレシアを設立

経営幹部と男性従業員の理解が必要

不妊原因の48%は男性側にあります。そのため、男性側がもっと不妊について考え、職場の制度や働き方に協力しなくてはなりません。経営幹部と男性社員が不妊治療について理解を示す企業が、今の社員、そして未来の社員に選ばれる要素になります。

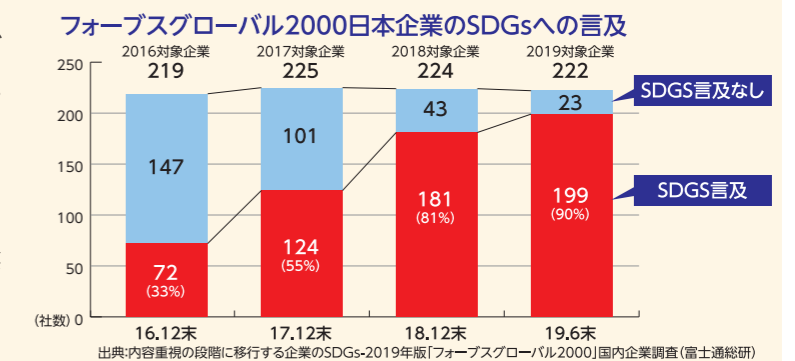
SDGs(持続可能な開発目標)として取り入れている

世界的にソーシャルビジネスが増えています。不妊治療の重要性に気づき、SDGsに取り入れることは、大きな価値になります。

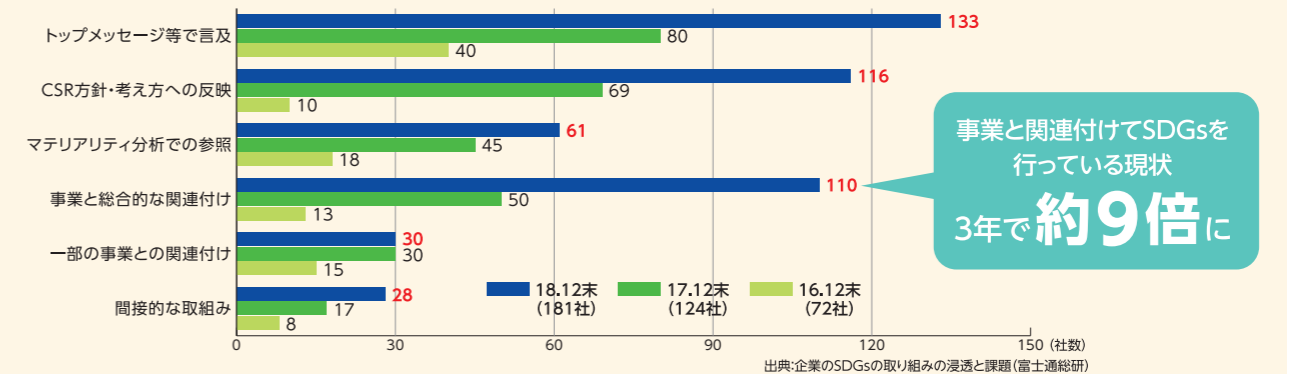
日本企業にも急速かつ着実に浸透するSDGs

富士通総研では2016年からフォブスグローバル2000ランクイン日本企業のSDGs言及状況を調査。2016.12末時点では33%に過ぎなかったが、2019.6末では対象222社の90%がSDGsについて言及。

また、事業との関連付けでSDGsを行う企業は2018.12末で約9倍に増加している。



フォブスグローバル2000日本企業のSDGs言及内容



事業と関連付けてSDGsを行っている現状
3年で約9倍に

「大企業だから取り入れられる」ではなく「取り入れているから成長する」

大手だから「制度を取り入れられる」という話をよく聞きます。しかし、実際はその反対です。「取り入れている」からこそ優秀な人が集まり、退職者も減る。社員のエンゲージメントが上がり、業績が上がり、結果的に会社は成長していくということです。

社員をどれだけ仲間や家族として受け入れているか

経営者は、自分の妻や家族が不妊治療をする場合なら、治療に通えるように仕事を調整するはず。そして、子どものいる社員は子どもが発熱したら急に休まなくてはならず、それが2～3日に及ぶこともあると思います。それは社会では認められていますよね。

では、育児よりも休む頻度も日数も少ない不妊治療の場合はなぜ理解されないのでしょうか？社員を家族の一員として受け入れ、不妊治療へのサポートを考えてみませんか？私たちはそのような企業と社員の支えになりたいと思っています。